

大阪府立港高校 第1回学校協議会

日時：平成28年5月28日(土) 10:00～
場所：校長室

○出席者(敬称略)

氏名	職名
老田 準司	森ノ宮医療大学 教授
小山 健蔵	大阪教育大学 教授
傳馬 美弘	大阪市立市岡東中学校長
加藤 昭弘	大阪市立波除小学校長
野上 千春	社会福祉法人波除学園総園長
三澤 則子	保護者(PTA副会長)

○協議内容

1. 学校長挨拶

過去3年の入試動向から見た本校の課題について説明

2. 自己紹介

協議会会长の決定 老田委員選出(全員一致)

3. 協議

(1) 「平成28年度 学校経営計画」について

① めざす学校像について

② 中期的目標

③ 本年度の取組み内容及び自己評価について

1 確かな学力の育成

・アクティブラーニングに重きを置き、生徒が主体的に取り組む授業を目指す。

・授業改善について、「授業見学DAYを設定し、全教員が数人の教員の授業を見学する。」

・各教科ごとに研究授業を行い、研究協議を行う。

・授業アンケートを6月と12月に実施。第1回の結果を踏まえ、「授業の振り返りシート」を利用して、授業改善のポイントを探る。

・授業力向上プロジェクトチームの活動を続けていく。

・隔週木曜日に教科会議を行い、教科としての3年間の指導計画を検討・協議する。

【意見】

- ・高等学校の「入口」、「中」、「出口」という視点で考えてみるとよい
- ・学力、生徒の生活習慣、学校運営という3点について、特に今日は考えてみたい。

2 豊かな自己実現の支援・夢や目標を持った生徒の育成

- (3) ルール・マナー遵守と規範意識の涵養
- (4) 生徒の自主活動の育成・活性化について
 - ・部活動に取り組む生徒に対するインセンティブ制度の検討
 - ・自治会活動としての取組み内容（アイデア）を検討する。
 - ・読書週間を身につけさせたい。
 - ・コア会議
 - ・リーダー研修の実施

【学校の「中」の部分について協議・質問】

Q：3年前（平成26年度）より45分7限にして成果は？

ALを積極的に取り入れている授業での生徒の反応はどうか？

- ・PT（20名程）で研究協議を続けており、教育センターのパッケージ研修を行い、授業観察Dayなど実施してきた。昨年度より秋に各教科代表が研究授業を行う形で実施している。ALの学校外での研修を教員全体に紹介し、実践につなげていこうとしている。今年度はパッケージ研修Ⅱを行い、さらに研鑽を積んでいきたい。

- ・2段階のメロディチャイムでベル始めがほぼ可能になる。
- ・学力差による授業の理解度の差に対する工夫は依然として大きな課題である。
- ・昨年度、3年生の全普通教室にプロジェクターを設置したところ、3年生での授業が分かりやすいが大幅に向上。今年度夏には全学年に設置予定。
- ・出前授業、授業見学等、他校種との連携も視野に考えている。

○中学校で多く言われている課題として

AL・ICT・道徳についてよく話題となる。特に中学校では大阪市の数校で40台のタブレット導入、電子黒板の導入が行われている。そこから高校に上がった時にどのような授業を行うのか？40～50代の教員がタブレットの活用ができるようにしていかないといけない。中学では採用10年未満が55%もいるが、10年目までの教員は吸収力が高いので教員間研修は効果が高い。高校でも効果を発揮するだろう。ALを目指すなら、小学校の授業を参考にするのが良いであろう。

3. 学校運営体制の強化・改善

（3）学校間連携・地域連携について

- ・地域防災課の方を本校に招いて協議している。
- ・地域の清掃活動
- ・あいさつ運動

- ・一昨年、昨年と港区の花である「向日葵」の壁画をイラストを美術部、イラスト部がJR弁天町駅高架橋脚に描いた。(一昨年は市岡高校美術部と協働)
 - ・全府一区が校区となった高等学校としては、地域貢献の工夫を考えないといけない。
- 保育園では敬老会のイベント等で連携している。
- 中学では地域の運動会の会場となり、自然と交流が生まれる。
- 中学への出前授業、職場体験、公園等の地域清掃などへの積極的な参加が必要。
地域の評価が上がれば入学志願者は増加するはず。
- 「中身」が「入口」を決め、「出口」が「入口」を決める。
- 港は受験したい子が多く層が厚い。希望する生徒は皆きっかけがあれば、大きく伸びる子が多い。子どもたちの「やる気」を引き出すことが大事
- ・数年前よりも上のレベルを目指そうとする生徒が増えている。
- 学校紹介のポスターのデザインや作り方が公立はあまり上手ではない。
- 志望校決定の決め手は成績。しかし、来てもらうための工夫が必要。
- もっと頑張っている(貢献している)姿を地域の人にアピールすることが必要
- 図書館法の改定により大阪市は図書館より専門司書の派遣が行われている。小学校のように朝読は難しくても、図書館の充実、読書習慣をつけさせることも必要
- 大阪市の中学校にはまもなくタブレットが導入されるだろう。設置におけるインフラ整備についての金銭的な課題、それ以外の課題はまだ山積している。大阪市の方向性は「学びの共同体」活動を推進すること。
- 学習の方向性は、入ってくる生徒がどのような活動を経験しているのかを調べて、考えて指導してほしい。

「中」の次は「出口」である進路について

1 確かな学力の育成 2 豊かな自己実現の支援・夢や目標を持った生徒の育成

○AO、指定校、公募などの入試で6割程が進学先を決めてしまう。

○Fシステムの導入 → 活用についての検証が必要

○就職先の新開拓

○最初に決めた志望校に。レベルを落とさずに入学できるように

○就職希望者には4月から指導。1回目の試験で6割程度内定をもらう。

○土曜日補習については3学期に8回実施、3年生になってからは放課後に8限目として補習を行う。

○Fシステムの活用にためには外部模試をもっと受けさせないといけない。

○部活も受験も両方とも頑張らせることが課題

その他

自治会活動について

体育祭に力を入れて行うところが特徴 → リーダー研修はまだまだ改良の余地あり

自治会執行部の活動について

先生のお手伝いチームになるのではなく、「自治」ができるようにと考えている。目安箱の設置や自治会新聞の発行など、まずは目指すべき方向を示せば、進んでくれる自治会にしていきたい。

M 委員（気になること）

- 市と府のお金の事情
- 部活動と勉強の両立 → 教員の励ましがとても大切
学習時間の確保をしながら部活動を続けるなど励ましていく。
- 大学、学問について進路先を決めていくために、2年生からのガイダンスをもっとしていくべき。
- 文武両道を掲げるのであれば、それぞれへのフォローが必要